

化学と教育

第71巻 第6号 2023年 目次

ヘッドライン ジェンダーと科学 —日本の女性科学者の先駆け—

2020年、エマニュエル・シャルパンティエ教授とジェニファー・ダウドナ教授は、ゲノム編集技術の開発で、ノーベル化学賞を受賞した。女性2人の共同受賞はこれが初であり、またその時点で化学賞受賞者は186人もいたが、女性化学者としては6、7人目にあたる受賞者で、女性受賞者の受賞者全体に占める割合は3.8%でしかなかった。また、化学賞を最初に受賞した女性は、1911年に「ラジウムおよびポロニウムの発見」で化学賞を受賞したマリー・キュリーであり、既に物理学賞も受賞していたが、本国フランスの科学アカデミーの会員になることはできなかった。1935年にその娘のイレヌ・ジョリオ＝キュリーが、「人工放射性元素の発見」で化学賞を受賞したが、やはりフランスの科学アカデミーの会員になることはできなかった。科学の先進国と思われる西欧においても、科学の世界はかくもジェンダー・バランスが悪いのである。これを日本に舞台を移してみた場合、どのような状況になるのであろうか。

今回の特集「ジェンダーと科学—日本の女性科学者の先駆け—」は、この分野に造詣の深い以下の4人の執筆者に、丹下ウメ（1873-1955）、黒田チカ（1884-1968）、湯浅年子（1909-80）、そして猿橋勝子（1920-2007）について書いて頂くことにした。

丹下ウメ：信念と情熱「道は開かれた」

—一師に恵まれた学びと研究の生涯—

蟻川 芳子 220

黒田チカ：研究環境を得ることが出来て最初の女性化学者に

黒田光太郎 224

湯浅年子：マリー・キュリーに憧れて

川島 慶子 228

猿橋勝子：科学研究，平和，後進の育成

小川眞里子 232

◆ 化学教育 徒然草

「化学と教育」の役割 渡部 智博..... 217

◆ 実験の広場

5分間デモ実験

反応速度の魅力的な見せ方 後飯塚由香里..... 236

化学クラブただ今実験中！

成田高等学校 自然科学部 鳩谷友一郎..... 238

表紙の言葉 名古屋市立向陽高等学校

名古屋市立向陽高等学校は平成18年に文部科学省から「スーパーサイエンスハイスクール」の指定を受け、理数教育の充実に向けた研究に取り組んで来ました。平成27年には“世界に通用するグローバル人材育成”“理数系難関大学への進学”を目標として、愛知県初の理数科として「国際科学科」が設置され、県下における理数教育推進のフロントランナーとしての役割を担っています。令和3年度には国際科学科3年生が国際化学オリンピックに出場し銀賞を獲得しました。

◆ 新・講座：セラミックスの化学

- ①陶磁器の化学 矢田 光徳, 一ノ瀬 弘道…………… 240
②ファインセラミックスの化学 北條 純一…………… 244
③ガラスの化学と不思議 矢野 哲司…………… 248

◆ SOMETHING NEW

- 2022年度化学普及活動功労者表彰 塩野 毅…………… 252

◆ 話題

- 支部長賞受賞者のお知らせ…………… 256

◆ Color Gallery

- 実験の広場 反応速度の魅力的な見せ方 後飯塚由香里…………… 口絵 19
新・講座 ガラスの化学と不思議 矢野 哲司…………… 口絵 19

会告

△ 日本化学会から

- 2023年度各賞候補者の募集…………… 260

- 行事一覧…………… 263 ■ 編集後記…………… 270

次号ヘッドライン

第29回化学教育フォーラム 高等学校化学における「化学反応と熱・光」の扱い方

学習指導要領の改訂と高校化学における「化学反応と熱・光」
高校化学における実践の視点から考える「化学反応と熱・光」の授業
国際バカロレアにおける実践の視点から提案する熱化学の授業
高大接続の観点から考える高校化学「化学反応と熱・光」の現状と課題

飯田寛志
小笹哲夫
鮫島朋美
今井 泉